

教育方針

〔1〕 学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓のうえに打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、社会が多様化し、国際化・情報化の時代を迎えている。本校では、菅平の自然・歴史・産業・文化を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自己教育力を身につけ、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

めざす子どもの姿（中期目標）

- ① 他者への感謝の気持ちを持ち続ける子ども
- ② 自分の良さに気づき自信をもてる子ども
- ③ 互いの良さを認め合える子ども
- ④ 自ら考え課題を解決しようとする子ども
- ⑤ 困難にくじけず挑戦する子ども
- ⑥ 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども

【学校長の願い】 「全ての教育活動を子ども理解をベースに展開して」

1 心の教育について

27年度は重点目標を「互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす」とし、重点活動①を「教師自ら子どもの良さに気づき、伝え、子どもの意識を啓発する」として子ども理解に重点を置き、重点活動②を「相手意識のある「あいさつ」を心掛け、小中それぞれの段階に応じたコミュニケーション能力や、理想的な関わり方を身につける」として、取り組んできた。子どもの姿からは、認められることで自信を持ったり、コミュニケーション能力の向上が見られたりする様子も見られたが、まだまだ十分な力がついていないのが現状である。

そこで28年度も引き続き、重点目標を「互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす」とし、重点活動①を「教師自ら子どもの良さに気づき、伝え、子どもの意識を啓発する」として子ども理解に重点を置き、重点活動②を「相手意識のある「あいさつ」を心掛け、小中それぞれの段階に応じたコミュニケーション能力や、理想的な関わり方を身につける」として、更に取り組んでいきたい。

2 学力の向上について

27年度は重点目標を「自ら進んで学習する子どもの育成をめざす」とし、重点活動①を「発達段階に応じた学習習慣を定着させていくための、小中共通した「学習の約束」の研究」重点活動②を「学力定着につながる小中連携のあり方を追究する」重点活動③を「各学年の発達や個に応じた“分かりやすい授業”指導のあり方を研究していく」とした。その結果、学習習慣の定着と学習意欲の向上や学力の向上といった面では、ある程度の成果を得ることができた。しかし、小中連携のあり方や個に応じた指導では不十分さが感じられた。

そこで28年度も引き続き、重点目標を「自ら進んで学習する子どもの育成をめざす」とし、重点活動①を「発達段階に応じた学習習慣を定着させていくための、小中共通した「学習の約束」の研究」重点活動②を「学力定着につながる小中連携のあり方を追究する」重点活動③を「各学年の発達や個に応じた“分かりやすい授業”指導のあり方を研究していく」として、特に小中連携と個に応じた指導に取り組んでいきたい。

3 キャリア教育について

菅平では80%以上の保護者が地元産業に就き、また25～35歳の男子卒業生の半数は菅平に戻って生活をしているという特徴がある。子どもたちや地域の将来を考えたとき、菅平の産業（農業・観光業）に携わりながら、地域の発展のために積極的に関わろうとする人材作りは欠かせない。そこで、27年度も重点目標を「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」とし、重点活動①を「この地に生きることの喜びを実感するために、地域との交流を仕組む」重点活動②を「総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、地域の農産業や観光産業を知る」として、この地に生きることの喜びを実感させていきたい。

今年度の重点目標

- (1) 互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす。
- (2) 自ら進んで学習する子どもの育成をめざす。
- (3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。